

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1	施設名	仙台市なのはなホーム
2	指定管理者	社会福祉法人 なのはな会
3	指定期間	平成29年4月1日から令和4年3月31日まで（5年間）
4	施設の利用状況	《利用者数》 ・令和元年度 5,301人（前年度比 100%） ・平成30年度 5,324人（前年度比 105%） ・平成29年度 5,091人（前年度比 97%）
		《事業》 ・児童発達支援事業
5	収支の状況	《費用》 ・指定管理者に支払った費用 63,228千円（57,751千円） ・その他市が負担した費用 1,144千円（3,276千円） 《収入》 ・使用料収入 65,442千円（62,181千円） ・その他収入 0千円（0千円）
		()は前年度決算額
6	利用者の声	《実施状況》 ・令和2年2月、指定管理者の協力のもと障害者支援課で利用者アンケートを実施した。

二 管理運営に係る評価

(モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野		所見	評価
I	総則	施設の設置目的に沿った事業計画が作成されており、職員も設置目的を適切に理解し、施設運営に当たっている。 利用者個々の特性に寄り添った療育を工夫して行っている。 近隣の子育て支援機関と連携し、地域支援の充実にも積極的に取り組んでいる。	42/42
II	施設の運営管理体制	施設の運営管理については、事業計画に基づいた運営がなされている。 経理書類の作成及び通帳印鑑の管理についても適正に行われている。	24/24
III	施設・設備の維持管理	施設・設備は適正に管理されており、利用者が快適かつ安全に利用できる環境整備に努めている。 環境への配慮としては、施設全体で積極的な取り組みを進めている。	24/24
IV	サービスの質の向上	サービス水準を確保するため、職員会議・研修等により人材育成を図るとともに情報共有に努め、職員全体でのサービス向上を目指している。 家族からの要望や相談にできる限り寄り添い、適切に対応するための体制を整えている。	27/27
V	施設固有の基準	個別支援計画を詳細に作成し、課題と取り組み、振り返り評価を行い、利用者個々の特性を踏まえたより効果的な療育を実施できるよう努めている。 指定児童発達支援事業所としての基準を遵守しながら利用者処遇の向上に努めている。	4/4

三 評価総括

《指定管理者（社会福祉法人なのはな会）による自己評価》
1年を前期後期の2期制とし、子どもの発達、障がい、生活をとらえ個別支援計画に沿って小集団の中で丁寧に取り組みを進めてきた。各期の終わりには「あゆみ」として評価し子どもの発達を保護者と共有してきた。子どもに合わせた通園を進めることで、低年齢児や医療的ケアを必要とする子においても、通園日数を伸ばし、体力がつき幼児期に必要な生活リズムを整えることができた。時期を見て母子分離保育を行い、保育者を仲立ちとして子ども同士の関りを深め、遊びを拡げることで自信へとつながっている。生活習慣の獲得においては、障がいと生活をとらえ、家族と連携して取り組み、自立へと進めることができた。家族支援においては、個別の支援を必要とする家族が増えているが、保護者の思いを聞き取り、必要に応じて相談や預かり延長保育を行い、家族の安定へつなげることができた。また、母親研修を定期的実施することで子どもの理解を深め、子育てへの前向きな気持ちになるきっかけとなった。地域支援においては、卒園児の訪問を行い、子どもを通してお互いの理解が進んでいる。地域の子育て機関との連絡会や支援への参加を拡げ、児童発達支援センターにつながる前の子どもたちとの出会いとなっている。また、地域へむけて見学会や研修を行い、児童発達支援センターの取り組みを地域の中でお知らせすることができた。

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
令和元年度の管理運営については、協定書及び仕様書に従って適切・良好に行われた。 地域の子育て支援施設との連携、情報共有に努め、地域の中で児童発達支援センターとして求められる役割を果たすため、積極的に地域支援に取り組んでいる。 定期的な母親研修の実施や、卒園児の進路先訪問を実施するなど、利用児童だけでなくその家族や、卒園児の支援も積極的に行っており、包括的で切れ目のない利用者処遇の向上に努めている。	S

四 その他特記事項

（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取り組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課（施設所管課）：健康福祉局障害福祉部障害者支援課